

■コメント

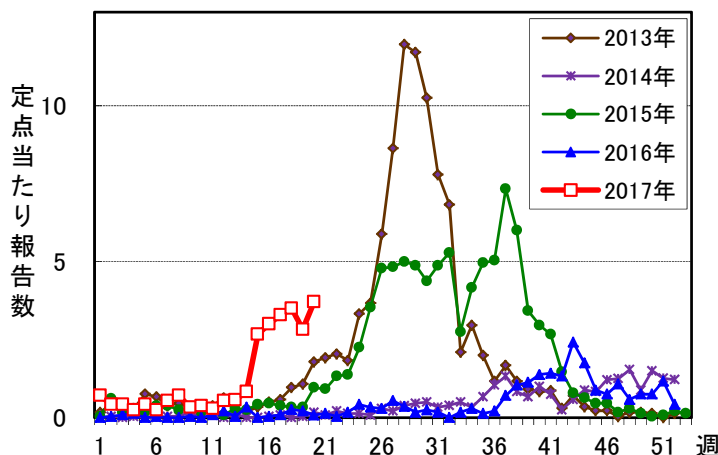
1. 手足口病

定点当たり3.71人と、前週と比べてやや増加しました。

手足口病は、口の中の粘膜や、手足などに水疱性の発しんがでるウイルス性の疾患で、主にコクサッキーウイルスA6、コクサッキーウイルスA16、エンテロウイルス71などが原因ウイルスとなります。感染経路は、飛沫感染、接触感染、便中に排出されたウイルスによる経口感染が知られています。

この疾患にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。手洗いの励行と排泄物の適切な処理、またタオルを共有しないなどの感染予防対策を徹底しましょう。

手足口病の流行状況



2. 日本紅斑熱

今年初めて1件の報告がありました。(次頁参照)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	3	0.08	0.48	
	咽頭結膜熱	22	0.92	0.44	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	77	3.21	2.35	
	感染性胃腸炎	162	6.75	8.95	
	水痘	2	0.08	0.87	
	手足口病	89	3.71	0.61	
	伝染性紅斑	2	0.08	0.35	
	突発性発しん	6	0.25	0.51	
	百日咳	1	0.04	0.07	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.39	
小児科	流行性耳下腺炎	10	0.42	0.73	
	RSウイルス感染症	2	0.08	0.11	
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	流行性角結膜炎	7	0.88	0.55	
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.34	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	56	男性(60歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
4	日本紅斑熱	1	1	男性(40歳代)
4	レジオネラ症	1	11	男性(70歳代)
5	アメーバ赤痢	1	6	男性(40歳代)
5	急性脳炎	1	1	女性(10歳未満)
5	梅毒	1	19	男性(40歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レン サ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 ロタウ イルス)
報告数	広島市	第16週	60	26	90	137	7	72	1	14	-	9	2	5	-	12	-	-	-	-	1
		第17週	32	28	87	103	14	79	3	11	-	8	7	6	-	7	-	-	-	-	1
		第18週	24	21	57	89	10	84	1	1	-	2	3	6	-	7	-	1	-	-	4
		第19週	14	19	77	144	13	68	1	11	-	1	5	2	-	1	-	-	1	-	2
		第20週	3	22	77	162	2	89	2	6	1	5	10	2	-	7	-	-	1	-	1
定点 当たり	広島市	第16週	1.62	1.08	3.75	5.71	0.29	3.00	0.04	0.58	-	0.38	0.08	0.21	-	1.50	-	-	-	-	0.14
		第17週	0.86	1.17	3.63	4.29	0.58	3.29	0.13	0.46	-	0.33	0.29	0.25	-	0.88	-	-	-	-	0.14
		第18週	0.65	0.88	2.38	3.71	0.42	3.50	0.04	0.04	-	0.08	0.13	0.25	-	0.88	-	0.14	-	-	0.57
		第19週	0.38	0.79	3.21	6.00	0.54	2.83	0.04	0.46	-	0.04	0.21	0.08	-	0.13	-	-	0.14	-	0.29
		第20週	0.08	0.92	3.21	6.75	0.08	3.71	0.08	0.25	0.04	0.21	0.42	0.08	-	0.88	-	-	0.14	-	0.14
	全国	第18週	2.03	0.43	2.01	5.15	0.30	0.44	0.06	0.41	-	0.06	0.44	0.19	0.01	0.57	0.01	0.03	0.21	-	0.63
		第19週	1.37	0.66	2.94	7.23	0.56	0.52	0.08	0.58	0.01	0.10	0.58	0.20	0.02	0.91	0.03	0.04	0.25	-	0.67

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.0)	1	男	2017/04/10	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型 ライノウイルス
手足口病	発熱(38.0) 丘疹 紅斑	1	女	2017/04/15	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.7) 気管支炎	1	男	2017/04/07	咽頭拭い液 鼻汁	RSウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.8) 細気管支炎	1	男	2017/04/07	咽頭拭い液 鼻汁	ヒメタヌモウイルス
その他の呼吸器疾患	気管支炎 鼻炎	7	男	2017/04/10	咽頭拭い液 鼻汁	ライノウイルス
その他の眼疾患	結膜充血 眼脂	36	男	2017/04/02	結膜擦過物	アデノウイルス54型
その他の疾患	発熱(39.0) 紅斑	3	女	2017/03/12	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう

-日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病-

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに吸着されることにより感染する病気です。2～8日の潜伏期間を経て、頭痛、発熱、倦怠感を伴い発症します。症状の主な特徴は、発熱、発しんで、ダニの刺し口も見られることがあります。マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。このほかに、SFTSやつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

6月1日(木)～6月7日(水)はHIV(エイズ)検査普及週間です！広島市では、HIV検査普及週間に合わせ、臨時検査を実施します。通常及び臨時を含めた広島市全体の検査日程は広島市のホームページからご確認ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1123576563958/index.html>

【問い合わせ先】健康福祉局 保健部 保健医療課 (電話 082-504-2622)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2017年第20週(5月15日～5月21日)